inochi WAKAZO Projet
2023年度　概要

一般社団法人inochi未来プロジェクト

※この資料に記載されている内容には未確定なものが含まれます。内容について変更になる可能性があります。

複製・無断転用禁止

いのち輝く未来社会の実現を、皆さまとともに。

一人でも多くの心臓病に苦しむ患者さんのいのちを救うために、
日々医療の現場でいのちと向き合い、格闘している医療者の立場から、
今回、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に
ついて改めて考え、各界の有識者の皆さまと議論する場が必要だと考えました。

新型コロナウイルスと闘い、共生し、予測できない不確実な未来に向かって
生きていくためには、いのちを救い、力を与え、つなぐ活動と、
経済社会活動が両立・循環する、新しい社会共有価値を生み出すことが必要です。

そのためには、アカデミア、企業の皆さま、市民、そして次世代を担う人材が、
垣根を超えて、それぞれが得意とするものを持ち寄り、議論し、失敗を恐れず行動し、
実証を重ね、実装していくことが不可欠です。

inochi未来プロジェクトの活動に少しでも興味を持っていただけた方は、
ぜひ、私たちの活動にご参加いただき、いのち輝く未来社会を実現するために、
お力をお貸しいただくよう、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人inochi未来プロジェクト
理事長　澤 芳樹

＜略歴＞
大阪府生まれ、現在67歳。1980年3月、大阪大学医学部卒業、同大医学部第一外科入局。1989年フンボルト財団奨学生として、ドイツのMax-Planck研究所心臓生理学部門、心臓外科部門に3年間留学。2006年、大阪大学心臓血管・呼吸器外科教授および大阪大学医学部附属病院未来医療センターのセンター長に就任。心筋細胞シートによる治療法を開発する。現在、大阪大学大学院医学系研究科特任教授、大阪警察病院院長。趣味はドライブと庭いじり。

複製・無断転用禁止

inochi 未来プロジェクト

inochi未来プロジェクトは、inochiの大切さと未来について考え、行動するプロジェクトです。

<めざすべきゴールと活動内容>

1. 人材育成 -inochiの“ひとづくり”-

◆世界の課題と向き合い、知恵を出し合う若い人材の育成。
◆若者自らが計画を立て、主体的な学びを行うきっかけづくり。
◆各領域の専門家と若者を相互につなぐネットワークづくり。

2. イノベーション -inochiの“ものづくり”-

◆イノベーション・エコシステムを創発するための提言。
◆医療・ヘルスケア産業の振興に関する提言。
◆産学官民の垣根を超えた議論のための場づくり。

3. 未来の都市モデル -inochiの“まちづくり”-

◆「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するための提言。
◆スマートシティやスーパーシティ等新しいまちづくりに対する提言。
◆市民一人ひとりが死生観を考えるための啓発。

<2014年の社団設立時より、inochiの万博開催を活動の軸に>

2014年inochi未来プロジェクト設立時資料

3. 202X年、inochiの万博を、関西で。

◆未来医療健康都市・関西の国際的なブランド化に寄与する活動。
◆未来医療健康都市・関西に対する企業や市民の機運を高める活動。
◆医療・健康をテーマにした、国際的な博覧会やフォーラムに関する構想の立案。

2015年関西財界セミナー澤芳樹講演資料

<inochi未来プロジェクト理事メンバー>

澤 芳樹(理事長)
大阪大学大学院医学系研究科
保健学科
未来医療学寄付講座教授

森尾 友宏
東京医科歯科大学
発生発達病態学分野
教授

田中 里佳
順天堂大学大学院
医学研究科再生医学
順天堂大学医学部形成外科学講座
教授(併任)

中村 雅也
慶應義塾大学医学部
整形外科学教室
教授

高橋 良輔
京都大学大学院医学研究科
臨床神経学 教授

宮田 裕章
慶應義塾大学医学部
教授

松村 真宏
大阪大学経済学研究科
教授

鈴木 寛
東京大学
慶應義塾大学
教授

池野文昭
Stanford
University

寺本 将行
ハーバード大学
公衆衛生大学院　学生

30歳以下
推進委員
/学生メンバー
約130名在籍

川竹 絢子
マウントサイナイ医科大学
大学院 学生

清元 佑紀
長崎大学
熱帯医学・グローバルヘルス研究科 学生

薬王 俊成
大阪大学
医学部卒　医師

田邉 翼
大阪大学
医学部 医学科
6年

相良 壮馬
大阪大学
医学部 医学科
4年

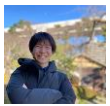
国富 太郎
順天堂大学
医学部 医学科
6年

福本 和生
徳島大学
医学部 医学科
6年

吉田 尭史
東京工業大学
環境・社会理工学院
社会・人間科学系
修士課程1年

加輪上 創介
奈良県立医科大学
医学部 医学科 5年

和田 功
昭和大学
医学部 4年


山田 峻矢
金沢大学
理工学域 機械工学類
3年

尾崎 文香
長崎大学
医学部 医学科
2年

複製・無断転用禁止

inochi未来プロジェクト

inochi未来プロジェクトは、inochiの大切さと未来について考え、行動するプロジェクトです。

運営組織図

一般社団法人
inochi未来プロジェクト

推進委員会
学生支部の支援・指導を行う現役医師

理事会
最高意思決定組織

事務局
多方面からサポート

助言・指導

inochi WAKAZO Project

大学生が全ての運営を行い、事業における実働やイニシアティブをとる。

- inochi Gakusei Innovators' Program
- WAKAZO

複製・無断転用禁止

inochi未来プロジェクト

学生支部 ＝inochi WAKAZO Project＝

医学部メンバー

約100名

所属大学（一部抜粋）

大阪大学
順天堂大学
徳島大学
奈良県立医科大学
昭和大学
長崎大学
岐阜大学
京都大学
島根大学
三重大学
滋賀医科大学
関西医科大学
大阪公立大学
防衛医科大学校
千葉大学
弘前大学
札幌医科大学
国際医療福祉大学
北里大学
聖マリアンナ医科大学
金沢大学
富山大学
福井大学
九州大学
熊本大学
佐賀大学
NewYork州立大学
東京大学
東京医科歯科大学
神戸大学
大阪医科薬科大学
和歌山県立医科大学
日本大学
久留米大学
鹿児島大学

非医学部メンバー

約50名

所属大学（一部抜粋）

東京工業大学
　環境・社会理工学院
京都大学 文学部
大阪大学 工学部
　外国語学部
京都薬科大学 薬学部
東京大学 教養学部
千葉大学 工学部
群馬大学 理工学部
立教大学 社会学部
慶應義塾大学 環境情報学部
　薬学部
　法学部
国際基督教大学 教養学部
星薬科大学 薬学部
東京薬科大学 生命科学部
金沢大学 理工学域
　先導学域
北陸大学　医療保健学部
九州産業大学 商学部
東京医科歯科大学 歯学部
立命館大学 政策科学部
同志社大学 文化情報学部

複製・無断転用禁止

inochi 未来プロジェクト

inochi未来プロジェクトのこれまでの活動

2013 → 2014 → 2015 → 2016 → 2017 → 2018 → 2019 → 2020 → 2021 → 2022

プロジェクト実行委員会発足

一般社団法人 inochi未来 プロジェクト設立

「202×年、inochiの万博を、関西で」
をテーマに
活動を開始

inochi未来 フォーラム/ フェスタを開始

財界セミナーで、202X年大阪万博誘致を提言

大阪府と共同で
「inochiフェスタ 2015」開催
テーマは
「水とinochiが、輝く、未来。」

『2025大阪万博誘致若者100の提言書』を
大阪府松井知事
に提出

経済産業省
有識者検討会で
「命を問う万博」
の開催を提言

提言書を下に、
「WAKAZO」
立ち上げ。
BIE視察団に
若者代表として
招致プレゼン

BIE総会で日本代表団の一員として WAKAZOメンバーが招致プレゼン

その後の投票で、大阪・関西への万博誘致が決定

「万博のインパクトを活かした大阪の将来に向けたビジョン有識者ワーキンググループ」
有識者委員として、
「ウェルビーイング中心社会/万博」
を提言

inochi未来フォーラムにて、関西・大阪万博テーマ館プロデューサーや博覧会協会副事務総長の森清様などをお招きし、**「inochiのペイフォワード」**の構想を発表。

「inochi未来・WAKAZO適塾」
全8回が終了。

「inochiのペイフォワード」
第一回実証実験開催。

「WAKAZO Global Discussion Event」
にて海外の若者
との競争を開始。

inochi WAKAZO Forum 2023
にて，『inochi WAKAZO 未来宣言2022』を日本国債万国博覧会協会機運醸成局長
堺井様に提出

産官学民＋次世代人材で、未来を共創する「inochi未来フォーラム」を毎年開催

産官学の垣根を超えた議論

次世代人材による提言とプレゼン

ヘルスケア＆SDGs課題解決型プログラム/コンテスト

エンターテインメントとサイエンスの祭典

複製・無断転用禁止

inochi WAKAZO Projectが目指すこと

MISSION

若者の力でいのちを守る社会を創る

PROJECTS

若者によるヘルスケア課題の解決と人材育成

inochi Gakusei Innovators' Program

▶民主化されたテクノロジーとコミュニティーリーダーシップを掛け合わせることで、ビジネスになる解決策もビジネスにならない解決策も考案でき、若者が行動していけるハブを提供。
▶新しいモノを作るデザイン力と他者に働きかける行動力を持った人材の育成。

誰もがいのちを守り合う、新たな未来を創造する

WAKAZO

▶2025年の大阪・関西万博やそのさきの未来を見据え、万博を起爆剤にして社会の大きな変革を起こそうと活動。
▶ヘルスケアデータの提供によって今守れないいのちを守る「inochiのペイフォワード」で、「いのち輝く未来社会」の実現を目指す。現在、実証実験計画中。

複製・無断転用禁止

i-GIP

inochi Gakusei Innovators' Program

inochi Gakusei Innovators' Programとは

中高生・高専生対象のヘルスケア課題解決プログラムです。毎年決まったテーマに５ヶ月間取り組み、解決策を競います。
中高生・高専生は計10回ほどの教育プログラムを通じて、大学生メンターと二人三脚でアイデアを磨き上げ、プレゼンを行います。

本年度は、関西・関東・北陸・九州の5地域で開催します。（関西:8年目、関東:4年目、北陸:3年目、九州:1年目）
当プログラムは、アイデアプレゼンにとどまらず、社会の中で実装されていくことを目指しております。
様々な外部のステイクホルダーを巻き込み、そして現場へのヒアリングなどを通じて一次情報を取ることにこだわって進めるこのプログラムは、当事者に寄り添い、高い共感力と倫理観を持つ**次世代のヘルスケアリーダーの育成**に繋がります。

過去の実績

日本含む8ケ国での参加・開催

国内外合わせて858名の修了生を輩出

252の課題解決アイデアの創出

400以上のメディアに取り上げ。想定UU2.2億。
毎日放送「情熱大陸」、関西テレビ「報道ランナー」など

2022年度（昨年度）の取り組み

●昨年度応募総数・参加人数・倍率　総応募808名（240チーム）　参加数219名（66チーム）　3.69倍

関西：417名（108チーム）・71名（21チーム）・5.87倍
関東：200名（70チーム）・82名（20チーム）・2.43倍
北陸：　61名（20チーム）　・20人（10チーム）・3.05倍
九州：130名（42チーム）・46名（15チーム）・2.83倍

●参加高校例

関西：灘高校・神戸女学院高校・洛南高校、
関東：都立日比谷高校・慶應義塾女子高校・渋谷教育学園幕張高校
北陸：金沢大学附属高校・仁愛女子高校、
九州：福岡大学附属大濠高校・福岡県立修猷館高校

複製・無断転用禁止

inochi Gakusei Innovators' Program

過去アイデア実績（実装例）

2019 ＜まもるまる＞

課題 AEDのパッドを貼るときに女性の服を脱がせるのにためらいがある

解決策 体を見ずに服を脱がして救命活動を行えるシート「まもるまる」

その後 日本AED財団学生支部として活動を継続

2021 ＜ファミハグ＞

課題 産前教育が不十分なため、産後うつになってしまう

解決策 子育て前に、子育て後の産後うつを予防する出産妊娠ボードゲーム

その後 フェムテックジャパン2022にブースを出展

2019 ＜RED SEAT＞

課題 スポーツ観戦者の心停止への対策が不十分

解決策 AEDの場所をあらかじめ知った人が座る“RED SEAT”

その後 東京2020のパブリックビューイングに実装

2022 ＜めでぃクル＞

課題 医療者と患者との間での，服薬状況についてのコミュニケーション不足による服薬アドヒアランス低下

解決策 服薬後の空袋を回収するボックス

その後 アインファーマシーズ様のもとで実証事件

修了生の実績

岡田 紗季（2016年度参加） 慶應義塾大学総合政策学部

「やって来るAED」を考案。有田市消防と全面提携ののち、実証検証を繰り返し、起業。

チームLupinus（2018年度参加） 当時智辯学園和歌山高校

環境省や自治体を巻き込み、自殺多発地域（和歌山・三段壁）に介入。実際に自殺未遂者が保護されている。

田中 祐太朗（2016年度参加） コロンビア大学 理工学部

柳井財団奨学生。
Digital Healthの研究に励んでいる。

柳津 聡（2016年度参加)ハーバード大学

COVID-19の緊急政策提言に取り組んでいる。

その他修了生も、医学部医学科に進学するなど、日本のヘルスケアを担う人材として活躍している。

複製・無断転用禁止

今年度のテーマ

睡眠時無呼吸症候群（SAS）で苦しむ人をゼロに

睡眠時無呼吸症候群は、眠り出すと呼吸が止まってしまう病気です。患者数は非常に多く、統計の取り方にもよりますが、2200万人であるとも推定されます。

本症候群の恐ろしいところは、深い睡眠がまったくとれなくなり、日中に強い眠気が出現することです。深い睡眠がとれなくなるのは、睡眠時に無呼吸になると血液中の酸素濃度が低下してしまい、目が覚めて再び呼吸するものの、眠り出すとまた止まってしまう現象を繰り返すからです。これにより日中にも関わらず眠くなります。このような、いわゆる眠気の問題は、居眠り運転に繋がるなど、大きな問題になります。加えて、近年の研究で心不全などの循環器疾患や、糖尿病などの、他の死に繋がる疾患との関連性も明らかになってきました。
今日のSASに対する治療法として、圧力をかけた空気を鼻から送り、気道を広げることで無呼吸を防止するCPAP療法があります。しかしながら、この治療を受けているのは令和3年度健康保険下で約70万人と少ないと言わざるを得ません。

そこで、i-GIP2023では、睡眠時無呼吸症候群（SAS）に取り組みます。

複製・無断転用禁止

今年度のテーマ

睡眠時無呼吸症候群（SAS）で苦しむ人をゼロに

無呼吸とは・・・**「10秒以上息が止まる状態」**のこと

「平均して１時間に５回以上、睡眠中に無呼吸が見られる」ことが診断基準となります。
睡眠時無呼吸症候群(SAS)では、**いびきや頭痛、日中の眠気・倦怠感**などの症状に見舞われます。

潜在患者数
約 500 万人
有病率
男性 約 9 %
女性 約 3 %

しかしながら・・・

睡眠時に気道に空気を送り続け、
気道開存状態を確保し続ける
CPAP治療の受療者数
約 50 万人

生活習慣病などの合併症の存在

逆に言えば・・・
SASの予防・治療は
生活習慣病などの予防・改善にもつながる

交通事故との関係

SASは**居眠り運転の原因の一つ**として
国交省も注意喚起をしている

→患者本人・家族だけでなく
もはや**社会の問題**！

複製・無断転用禁止

i-GIP 2023 KANSAI 代表挨拶

ヘルスケアの課題は医療者だけが解決できるものではありません。ヘルスケアの課題には、治療法を考えるだけではなく、予防、啓発、医療機器開発、社会復帰の支援、それらを後押しする政策の提言など様々なアプローチがあります。それには医療者だけでなく様々な立場の人が必要です。ヘルスケア課題に対して直接的な治療法以外に加えて、多方面からアプローチすることで、現状では守りきれていない命を守ることができます。

様々な業種・立場の方々を巻き込み、現状を打開するアイデアを生めるのはまだ何者でもない若者なのです。医療技術がなくても私たち若者の考えたアイデア一つで、私たち若者の行動力一つで、社会をよくすることができます。

ただ、1人では何もできません。皆さんの中には、データを調べるのが得意な人、アイデアを思いつく人、みんなの意見をまとめる人、行動に移すのが得意な人など様々な人がいると思います。1人の力ではできないことも、inochiのプログラムを通してチームで力を合わせて課題を解決することができます。既存の仕組みではまだ困っている方々に寄り添い、中高生と大学生が協力して、「いのち」を守ってゆきます。

奈良県立医科大学 医学部
医学科 5年
加輪上 創介

複製・無断転用禁止

i-GIP 2023 KANTO 代表挨拶

僕の生きる上でのキーワードは、「周りにいる人の笑顔」です。

そのためには、身体や心が健康でいられることが必要だと考えています。しかし、社会に目を向けてみると、医療が充実・進歩してきたとはいえ、そのサービスから漏れてしまう人が多くいます。医療現場には毎日たくさんの患者さんが訪れますが、全員が完治するまで医療現場でフォローすることはできず、疾患と向き合いながら生活していかなければならない患者さんがたくさんいます。行政もそういった患者さんを支えるために日々奮闘していますが、それでもまだ困りごとを抱えている人がたくさんいます。

そんな医療や行政の場から離れたところで苦しむ人に向き合い何か手を差し伸べることができるのは、学生として学びながら自由に動くことのできる私たち若者なのです。社会に出る前の段階で学生として学んでいる私たちだからこそ、何にも縛られていない若者だからこそ、ひたむきに患者さんに向き合ってその患者さんの医療・行政のサービス外での困りごとを解決することができると信じています。

誰かの「いのち」を守ることは医療者だけが行うことではなく、私たち若者にもできるのです。「若者の力でいのちを守る社会」を一緒に創っていきましょう！

昭和大学 医学部
3年
和田 功

複製・無断転用禁止

i-GIP 2023 HOKURIKU 代表挨拶

金沢大学 理工学域
機械工学類 3年
山田 峻矢

今年取り組む医療・ヘルスケア問題である、睡眠時無呼吸症候群（SAS）は、病気としては治療可能でも、病院側のみで対策を完結することは難しく、私達市民の側から 生活習慣さえ改善することさえできれば、なくなるはずのなかった人がまだ多くいる、そんな医療・ヘルスケア問題です。

この大きな医療・ヘルスケア問題に対し、医療現場でない、私たちの生活の現場、僕たちの意識一つを次世代アントレプレナーとして変えていくことができれば、この現状を変えることができるかもしれません。

こういった既存の医療体制では介入できない部分に対して、市民と医療者の境界を越え、次世代アントレプレナーとして課題に向き合い、開発・対話・研究・提言といった手段を模索しながら解決策を創出していきます。

僕たち若者のアイデアで、世を“わっと！”驚かせ、睡眠時無呼吸症候群（SAS）で苦しむ人の未来を変え、守れるはずのイノチを、僕たちとともに確実に守っていきます。

複製・無断転用禁止

i-GIP 2023 KYUSHU 代表挨拶

私がi-GIPでしたいことは、「いのちを守ること」です。私は「いのちを守る方法」は沢山あると思っています。

もしかしたら、「いのちを守る」ということを皆さんが聞いたとき、目の前にいる息絶えそうな人の命を救う、病気をなくすという意味で捉えられるかもしれません。でもはたしてそれだけでしょうか。
医療が発展して、平均寿命が伸びた結果、病気とともに生きる期間が伸びているように思います。病気とともに生きる上で諦めなければならないことを抱えながら生活するうえでの、生きづらさをなくすことも、その人のいのちをまもることになる、そう考えています。

だからこそ、私はi-GIPで中高生と大学生が自分にでも救えるいのちをみつけ、たくさんの手を借りて、そのいのちを救っていくということがしたいです。
そのためには、2つのことが必要です。まず、自分にできること、自分のオリジナリティを理解していくこと、次に、一人一人がいのちを救うということについて考え、試行錯誤することです。

最後に、こんな思いを持っていたのは、私自身が、昔中高生としてこのプロジェクトに参加したときです。そのとき取り組んだテーマは違ったものの、同じ「いのち救うこと」の難しさと、でも自分にもできることがあることを知ったからです。
だから、私は、いのちを救おうという思いを持った大学生、中高生の仲間とともに、i-GIP KYUSHUを創っていきます

長崎大学 医学部
医学科 2年
尾崎 文香

複製・無断転用禁止

inochi Gakusei Innovators' Program 2022

i-GIP

- 基本的に個々のチームで活動するが、計10回ほどの教育プログラムを実施

4/1-5/29	6月	7-10月	10月下旬	12/3
参加中高・高専生募集	チーム選考（約20チーム）	教育プログラム	最終選考会	inochi WAKAZO Forum

中高・高専生
2～4人チーム

複製・無断転用禁止

i-GIP

inochi Gakusei Innovators' Program 2022

KANSAI	KANTO	HOKURIKU	KYUSHU
7/9 kick off	7/9 kick off	7/2 kick off	7/2 kick off
7/23 デザインシンキングday	7/16 デザインシンキングDay	7/9 デザインシンキングDay	7/16 デザインシンキングDay
8/13 プロトタイピングDay	7/30 ヒアリングDay1	7/16 テーマ勉強会	8/6 方法学習Day
8/27 プレゼンDay	8/27 プレゼン方法Day	7/23 現場見学Day	8/19 先端技術見学
9/10 中間コンペ	9/3 プレゼン実践Day	8/27 中間コンペ	8/27 プレゼンDay#2
9/17 メンタリングday	9/24 ピッチDay	9/24 ピッチDay	9/24 ピッチDay
10/1 WKC Forum (with WHO 神戸センター)			
10/29 最終選考会	10/29 最終選考会	10/22 最終選考会	10/22 最終選考会
12/3 inochi WAKAZO Forum			

複製・無断転用禁止

WAKAZO　代表挨拶

ペイフォワードとは、恩送りという意味です。
誰かから受け取った「あたたかさ」を、本人ではなく、また違う誰かへと贈る。
こうすることで、「あたたかさ」から始まる循環型の世界が生まれていきます。
私は、誰しもが取得可能なヘルスケアデータ用いることで、医療でこの循環を生み出すことができるWAKAZOでの活動を魅力に感じ、大学一年生の春にWAKAZOに入りました。

WAKAZOには、全国から「誰もがいのちを守りあう、新たな未来を創造する」ことにわくわくしているメンバーが集まっています。
若者だからこそ、医療という枠組みをどんどん超えて、未来の医療・ヘルスケアを「あたたかさ」で満たしていきたいです。

また、大阪・関西万博まで2年を切りました。京都出身の私にとって、関西で未来について考える瞬間を世界中の人々と分かち合える体験は今から楽しみで仕方がありません。
歴史に残る１ページを様々な分野の仲間とともに描いていきます。

東京医科歯科大学歯学部歯学科3年
松井 瞳

複製・無断転用禁止

WAKAZO

WAKAZOとは

WAKAZOは、**「誰かのいのちのために自分のいのちを大切にする未来社会」**を目指す、医学生を中心としたプロジェクトです。大阪・関西万博の誘致を機に2016年に結成し、「inochiのペイフォワード」の実証実験や、大阪・関西万博に向けて日本と世界の若者が集うイベントやパビリオンでの企画を行っています。

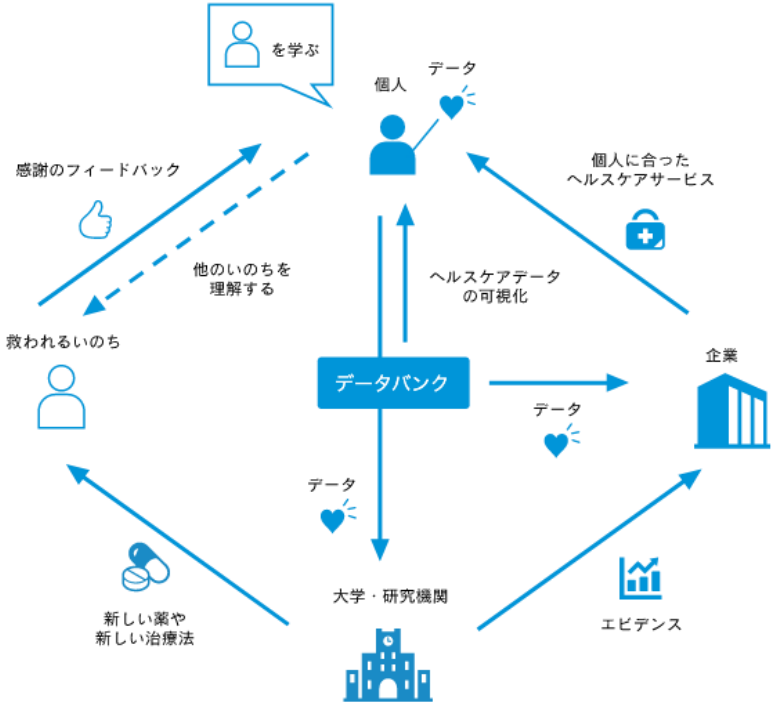
これまでのあゆみ（抜粋）

- 大阪活力グランプリ2018 【グランプリ】受賞
- G20大阪サミット2019 PR動画出演 / 海外プレスツアー取材
- 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会主催2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けた共創とビジネスチャンス登壇(2021/12/1)
- 日本経済新聞 全面広告に取材掲載(2021/12/15)
- PM Award 2022 【優秀プロジェクト賞】【岡山大学SDGsイノベーション賞】受賞
- 大学SDGs ACTION! AWARDS 2023 【選考委員特別賞】受賞
- 超高齢社会の課題を解決する国際会議（主催：日本経済新聞社、経済産業省）登壇
- 日本経済新聞 全面広告に取材掲載(2023/4/13)

複製・無断転用禁止

inochiのペイフォワードとは

ペイフォワード（Pay-it-Forward）とは、**誰かを大切にする想いの循環**という意味です。 WAKAZOが構想する「inochiのペイフォワード」は、「誰かのいのちを守りたい」という思いから、自分のヘルスケアデータを提供するシステムです。これにより研究や開発が進むことで、**現在守ることのできていない「いのち」を市民で守り合うこと**を目指します。



この活動は、「TEAM EXPO 2025/共創チャレンジ」に登録されています。

複製・無断転用禁止

Great Santa Runでの実証実験

2021年から2022年にかけてGreat Santa Runにて、inochi のペイフォワードの実証実験を行っています。大阪大学大学院医学系研究科スポーツ医学の先生、株式会社アシックス様からのご協力のもと、闘病生活を送る子供たちにクリスマスプレゼントを贈ることを目的としたチャリティーランイベント「Great Santa Run」の参加者から、自身のヘルスケアデータを寄付していただきました。実際に、自分のヘルスケアデータが医学的に価値があることを理解してもらい、楽しみながら誰かのために自分のいのちを大切にすることを学ぶことができる場所になっています。

主催：一般社団法人 inochi 未来プロジェクト / inochi WAKAZO Project
協力：Great Santa Run
研究協力：大阪大学大学院 医学系研究科 スポーツ医学

2023年度は、OsakaとTokyoの2都市で開催予定→inochiのペイフォワードを五感で体験

複製・無断転用禁止

WAKAZO

2025年大阪・関西万博に向けて

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。WAKAZOは、大阪・関西万博を通して、いのち輝く未来社会のための新しい価値観や仕組みを万博後にも残していくために活動しています。inochiのペイフォワードの体験や大規模実証実験、イベントやパビリオンでの企画を行なっています。

1.パビリオン

WAKAZO BASE

- 来場者が自身のヘルスケアデータを寄付できる仕組みを会場内で実装
- 世界中の人々の「死生観」を感じられる展示

2.催事（イベント）

WAKAZO ANOTHER WORLD

- 新しい自分に出会うためのいのち輝くイベント
- 世界中の若者とともに「いのち」について考える１日

複製・無断転用禁止

CONFIDENTIAL
関係者外秘資料

本書には主催者/制作者をはじめとする関係各社が管理する機密情報が含まれています。
各種情報の取扱には十分注意し、不要となった際には、各社管理責任者がシュレッダーによる処分等適切且つ安全な方法にて破棄してください。

inochi WAKAZO Forum 2023

（仮）

実施概要書

OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO 2025

複製・無断転用禁止

■ 2023年度開催概要 ■

タイトル	inochi WAKAZO Forum 2023(仮)
主催	一般社団法人 inochi 未来プロジェクト / inochi WAKAZO Project
会 場	本会場：中之島会館 オンラインとオフラインのハイブリッド
日 時	12月3日（日）　予定
想定参加者	総参加、視聴者数　のべ1万人

◆本件に関するお問合せ◆
一般社団法人inochi未来プロジェクト
事務局：後藤　充宏　メールアドレス：m-goto@star-s.co.jp
連絡先：090-8930-7878

複製・無断転用禁止

■ 2022年度開催実績（ご参考） ■

タイトル	inochi WAKAZO Forum 2022 ～情熱で、いのちを輝かそう。～
主催／後援	inochi WAKAZO Project 一般社団法人 inochi 未来プロジェクト 後援 経済産業省近畿経済産業局 / 公益社団法人２０２５年日本国際博覧会協会 / 公益社団法人関西経済連合会 / 一般社団法人関西経済同友会 / 大阪商工会議所 / 公益財団法人関西・大阪21世紀協会 / 公益財団法人 大阪観光局 / 大阪府 / 大阪市 / 一般社団法人日本バイオデザイン学会 / 一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構 / 一般社団法人 健康医療クロスイノベーションラボ / 大阪大学 大学院医学系研究科・医学部附属病院 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ / 大阪公立大学 観光産業戦略研究所 / 金沢大学 融合研究域 / 日本貿易振興機構（ジェトロ）大阪本部 / 公益社団法人 東京都医師会 / 一般社団法人 大阪府医師会 / 一般社団法人 日本心不全学会 / 一般社団法人 日本循環器学会 / 一般社団法人 日本腰痛学会 / 公益財団法人 日本心臓財団 / 一般社団法人 日本心臓病学会 / 一般社団法人 日本循環器協会 / 一般社団法人日本心不全学会 / 関西SDGsプラットフォーム大学分科会 / 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ / 文部科学省(順不同)
会 場	本会場：中之島会館（大阪市北区） オンラインとオフラインのハイブリッド
日 時	2022年11月20日（日） 13:30開会／18:30閉会 〈第1部〉 13:30－16:30 〈第2部〉 16:50－18:30
参加者	総参加、視聴者数 のべ1万人

複製・無断転用禁止

■ 2022年度開催概要　(ご参考) ■

inochi Gakusei Forum

inochi Gakusei Innovators' Programとは、若者が実際のヘルスケアの問題に取り組む課題解決型のアイデアコンテストです。
参加者は、ヘルスケア・リーダーシップ・デザイン思考・テクノロジーといった様々な分野のトップランナーからの教育プログラムを含む約5か月半、若者ならではのプランを考案・実行してきました。

↑優勝チームの発表

inochi Gakusei Forumでは、各地域の中で優秀なプランを生み出した中高生7チームが約5ヵ月のプロジェクトの成果を発表し、グランプリを決定しました。

<心不全パンデミックのコンペティション 審査員の方々>

Stanford University
池野文昭

大阪大学大学院医学系研究保健学専攻/寄附講座准教授
八木雅和

東京大学教授/慶応義塾大学教授
鈴木寛

株式会社メトセトラ/代表取締役(co-founder and co-CEO)
岩宮貴紘

葛西医院 院長/KISA2隊大阪 隊長
小林正宣

※肩書は2022年11月20日、当時のものです。

inochi EXPO Forum

今回のinochi EXPO Forumではイベントテーマ「LIFE&DEATH」

-死を考え、生きることを問う-

「いのち」には、「生」と「死」がある。輝くいのちの裏側には、消えゆくいのちがある。ライフサイエンスやテクノロジーの発展は、「死」の定義を変えてしまうかもしれない。私たちは、すべての生命に共通する「死」について、感じ、考え、議論し、理解を深めることで、「生きることとは何か?」を問いかける、そんな1日を万博で実現したいと考えました。
この実現のために、ANOTHER WORLDでは、カンファレンス、ラボ、フェスの3つの要素を盛り込んでおり、現状と今後の展望を発表しました。

<ファシリテーターの方々>

東京大学教授/慶應義塾大学教授
鈴木 寛

大阪警察病院院長/inochi未来プロジェクト理事長
澤 芳樹

バイオアーティスト、研究者、開発者。
福原 志保

大阪大学医学系研究科保健学専攻看護実践開発科学講座准教授
山川 みやえ

公益社団法人２０２５年日本国際博覧会協会/機運醸成局長
堺井 啓公

立命館大学政策科学部政策科学科1年/WAKAZO代表
飯塚 遼馬

京都府立医科大学医学部医学科2年/inochi WAKAZO Project 2022全体代表
北野 幸一郎

複製・無断転用禁止

■ 2022年度開催の様子　(ご参考) ■

inochi Gakusei Forum

各地域代表によるプランプレゼンテーション

北陸代表チームプレゼンテーション

審査員の方々

田邊によるUSAの発表

inochi EXPO Forum

ディベート時の澤先生

パネルディスカッション

複製・無断転用禁止

ご協賛プラン

複製・無断転用禁止

inochi WAKAZO Project 2023　ご協賛一覧表

プラン名	プラチナ	ゴールド	シルバー	ブロンズ	フレンズ
協賛価格（税抜）	500万円	300万円	150万円	50万円	20万円
inochi WAKAZOフォーラム冊子(PDF)への広告掲載	4C 1P	4C 1P	4C 1/2P	4C 1/2P	4C 1/4P
HP/冊子/報告書への協賛表記	企業ロゴ（特大）	企業ロゴ（大）	企業ロゴ（中）	企業ロゴ（小）	企業ロゴ（特小）
登壇権	○	―	―	―	―
休憩時間でのCM放映	60秒	30秒	15秒	―	―
inochi WAKAZOフォーラムでの冠賞（調整）	○	―	―	―	―

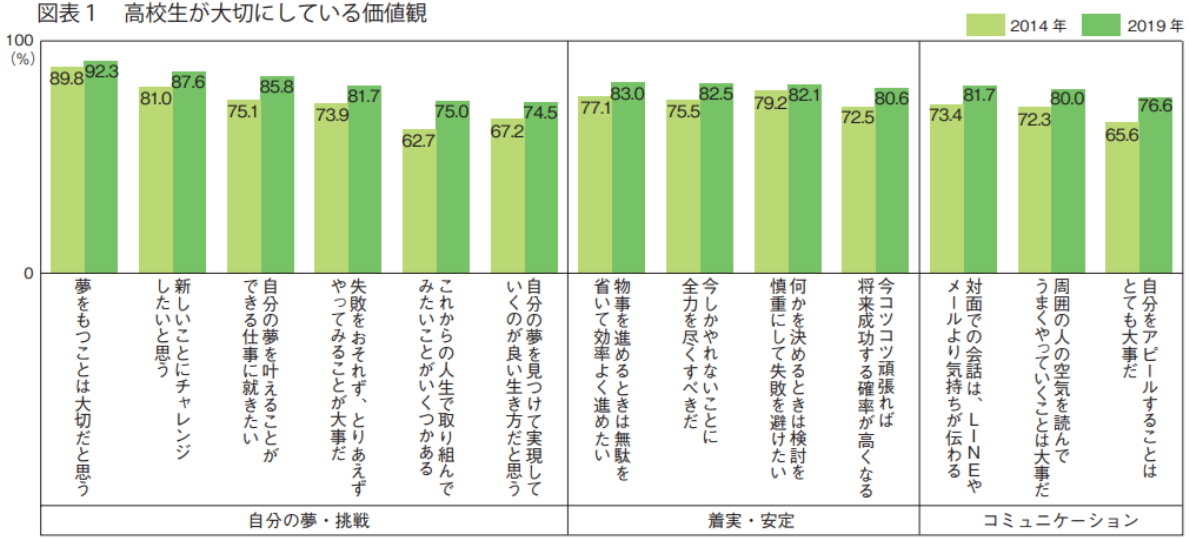
※この資料に記載されている内容には未確定なものが含まれています。内容について変更になる可能性があります。
※新型コロナ感染症の感染拡大など、社会情勢によっては、情報交換会は、縮小または中止になる場合がございます。ご了承ください。

複製・無断転用禁止

inochi WAKAZO Project 2023にご協賛いただくメリット

1. 社会課題解決に興味のある高校生・大学生に対する企業ブランド認知と共感の獲得

図表１　高校生が大切にしている価値観



2019リクルート、高校生価値意識調査

多くの高校生が「自分がやりたいことを大切にし、今しかやれないことに全力で尽くしたい」と考えている

プログラムに参加する高校生・大学生に対して、
自分がやりたいことを応援してくれる企業として、認知・共感を醸成することが可能

複製・無断転用禁止

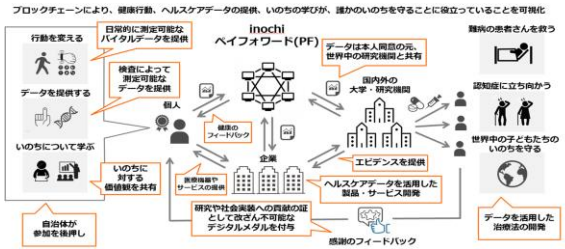
inochi WAKAZO Project 2023にご協賛いただくメリット

2. 2025年大阪・関西万博に向けた共創機会の創出(別途ご調整が必要)

2025年大阪・関西万博に向けたSDGs、Society5.0に関する取組みを、ご協賛企業様と個別に行わせていただきます。

共創機会の一例

inochiのペイフォワードプロジェクトの共創



現在、ペイフォワードの共創にて、企業様のご参画を募集しています。今年度、Great Santa Runにて、大阪大学大学院医学系研究科保健学科との共同研究を予定しており、「inochiのペイフォワード」の構想に向けて実証実験を行っております。

TEAM EXPO2025 共創チャレンジへの共同エントリー

「TEAM EXPO 2025」は多様な人たちがチームを組み、多彩な活動で大阪・関西万博とその先の未来に挑む、みんながつくる参加型プログラムです。企業様との新しいプロジェクトの組成も検討可能です。

企業の若手社員と学生メンバーとの合同ワークショップ

企業様の若手社員とinochiWAKAZO Projectメンバーによる、ヘルスケア課題やSDGs、Society5.0をテーマにした合同ワークショップ等の開催について、企画段階からのご調整が可能です。

※テーマ・内容によってはご要望に沿えない場合もございます。詳細は担当者までお問い合わせください。

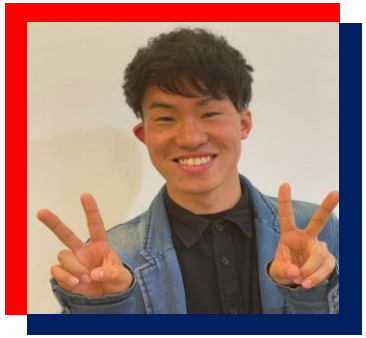
複製・無断転用禁止

過去、現在にわたる主要メンバーの紹介

寺本 将行
WHOに勤務した後、ハーバード公衆衛生大学院に進学。

川竹 絢子
BIE総会（万博開催地を決める国際会議）日本代表プレゼンター。

山田 達也
大学在学中に、感染症検査キットの製作で起業。



中井 洸我
大学発ベンチャーを立ち上げ、Babytechの研究中。

岸本 彩子
シンクタンクに就職。医療方面の政策立案などに関わる予定。

清元 佑紀
総合診療医としてプライマリケアを実践する傍ら、社会人大学院に入学し、臨床研究を行う。

福本 和生
産後うつによる自殺を減らすため泣き声ストレス軽減のための泣き声理解促進アプリ「あわベビ」を開発。

中島 花音
若い女性に多い、子宮頸がんの予防啓発をする学生団体Vcanを立ち上げ、運営。

複製・無断転用禁止

（ご参考）2022年度協賛企業・後援団体一覧

■協賛

Donation Partner

りそなグループ RESONA

i-GIP Partner

一般財団法人 三菱みらい育成財団

Platinum Sponsor

カーポートマルゼン

Gold Sponsor

WAO! ワオ・コーポレーション

Silver Sponsor

PASONA

Bronze Sponsors

SHIONOGI

LINK-J Life Science Innovation Network Japan

いのちをつなぐ SARAYA

AstraZeneca

i2.JP Innovation Infusion Japan

GLOBAL LEARNING CENTER

Route H 海外トップ大進学塾

Lilly

Friends Sponsors

MS&AD 三井住友海上

Shin Shin Chemical Co.,Ltd.

Nhes.

KRP KYOTO RESEARCH PARK

Miyako 起業部 @KRP

HVC KYOTO

TERUMO

ENEGATE

アイングループ

Coca-Cola BOTTLERS JAPAN INC.

プロポーションづくりのダイアナ Diana Solution for Life

NEVER SAY NEVER ロート製薬

Hankyu

英進館

shisaku

OKAMOTO

crossEffect

CIC tokyo

OIH

■後援

経済産業省近畿経済産業局/公益社団法人2025年日本国際博覧会協会/公益社団法人関西経済連合会/一般社団法人関西経済同友会/大阪商工会議所/公益財団法人関西・大阪21世紀協会/公益財団法人大阪観光局/大阪府/大阪市/一般社団法人日本バイオデザイン学会/一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構/一般社団法人健康医療クロスイノベーションラボ/大阪府立大学観光産業戦略研究所/国立研究開発法人国立長寿医療研究センター/一般社団法人日本老年医学会/公益財団法人日本AED財団/一般社団法人徳島県助産師会/金沢大学融合研究域/文部科学省/一般社団法人大阪府医師会/公益社団法人東京都医師会/独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部/大阪大学大学院医学系研究科・医学部附属病院 産学連携・クロスイノベーションイニシアチブ(順不同)

複製・無断転用禁止